

## こんな顔で～山田寺の仏頭によせて～

相田みつをさんの詩に「こんな顔で～山田寺の仏頭によせて～」という詩があります。卒業する生徒たちにこんな人になってほしいという願いを込めて卒業式の式辞で紹介したこともあります。

この仏頭は今から1300年以上前に飛鳥山田寺の本尊としてつくられた後、興福寺の本尊薬師如来として迎えられましたが、約600年前に被災し、頭部だけ残ったものです。伸び伸びと弧を描きながら流れる眉、水平に伸びる下まぶたとそれを被うように弧を描く上まぶた、額から直線的に伸びる鼻、ふっくらとした唇、顎の張ったたくましい面相は、青年のような若々しさ、清々しさを感じさせると評されています。相田みつをさんはこの仏頭を見て感動し、次のような詩を残しています。



## こんな顔で～山田寺の仏頭によせて～

宮沢賢治の詩にある

「雨ニモマケズ 風ニモマケズ」

というのは

こんな顔の人を言うのだろうか・・・

この顔は

かなしみに堪えた顔である

くるしみに堪えた顔である

人の世の様々な批判に

じっと堪えた顔である

そして

ひとことも弁解しない顔である

なんにも言いわけをしない顔である

そしてまた

どんなにくるしくても

どんなにつらくても

決して弱音を吐かない顔である

絶対にぐちを言わない顔である

そのかわり

やらねばならぬことは

ただ黙ってやってゆく、という

固い意思の顔である

一番大事なものに

一番大事なのちをかけてゆく・・・

そういうキゼンとした顔である

この眼の深さを見るがいい

深い眼(まなこ)の底にある

さらに深い憂いを見るがいい

弁解や言いわけばかりしている人間には

この深い憂いはできない

息子よ

こんな顔で生きて欲しい

娘よ

こんな顔の若者と

めぐり逢って欲しい

『耕人塾』の塾生の皆さんにもこのような人になってほしいとの願いを込めて紹介しました。

## ちょっといい話

9月28日(土)29日(日)に私が主宰している「朝鍛会」(毎週土曜日5:30~6:30 剣道の稽古会)の合宿を志津川自然の家で行いました。総勢30人以上の参加で、昼は2回の稽古に汗を流しました。中学生も3人参加したのですが、その言動に感動したことをいくつか挙げます。

①礼儀正しく敬語を使って話ができる。②食事の配膳や後片付けを率先してやる。③トイレや廊下の掃除をさりげなくやる。見ていて爽やかさと温かさを感じました。夜の懇親会には3人でみんなが楽しめるゲームを企画し、大いに盛り上がりました。『耕人塾』の今年度のコンセプトは「主体・楽しさ・創造」です。残り3回の活動で塾生の力を発揮してほしいと願っています。